

個人住宅 モニタリングマニュアル (2013. 10. 21)

準備する機材：

計測器：

<input type="checkbox"/>	日立アロカメディカルTCS-172B -1 (SN 20161036)	電池	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	日立アロカメディカルTCS-172B -2	電池	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	関西電子4GMT02 (GM管式)	電池	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	関西電子 3 1 1 β	電池	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	個人線量計		
<input type="checkbox"/>	計測地点表示番号札 1-60番		
<input type="checkbox"/>	2m巻尺		
<input type="checkbox"/>	計測地 見取り図作成用紙		
<input type="checkbox"/>	測定値 記入用紙		
<input type="checkbox"/>	目印用テープ		
<input type="checkbox"/>	カメラ		
<input type="checkbox"/>	行動隊のベスト		
<input type="checkbox"/>	屋内用スリッパ		
<input type="checkbox"/>	家屋外周りの計測時に汚染する可能性が高いので、天候・気温を考慮して服装を整える。		

計測の仕方の基本

- TCS-172の時定数が10秒であることを確認する。
- 計測地点でプローブを保持して30秒待って、最初の計測値を記録する。
- 以降、15秒ごとに2回計測する。
- 合計3回の計測値を記録する。

班編成

(予定) 氏名を記入する

班長 1名

1m高 測定者

0m高 測定者

計測値記録者

計測地点記入者

見取り図上に計測地点記入 写真撮影

測定手順

依頼者宅に到着後

- 班長は依頼者または居住している人に挨拶。
- 班長は見取り図を基に計測ルートをきめる。番号札を置く。
- 測定者は計測器の電源を入れてウォームアップを行う。
- 1m高計測担当者は自分の服の1m高の位置にテープ等で目印をつける。
- 屋内の計測時はスリッパを履く。

計測点の選び方：最初に屋内を測定する

玄関

- 入り口の約 1 m外
- 玄関の内側
- 玄関の中心
- 広いときには玄関の4隅
- 0cm高の測定は丁寧に行う。

通常の子屋：

- 部屋の子中心 1m高
- 部屋中心 天井付近（手を伸ばしてプローブを天井に近づける）
- 部屋の子隅1 1m高（4隅に家具や荷物がある場合は敢て移動させず近くで計測する。）
- 部屋の子隅2 1m高
- 部屋の子隅3 1m高
- 部屋の子隅4 1m高
- 部屋の子中心 0m高
- 部屋の子隅1 0m高
- 部屋の子隅2 0m高
- 部屋の子隅3 0m高
- 部屋の子隅4 0m高

通常は、床あるいは畳表面の線量率が一番低く、ついで1m高、天井付近の順であり、窓際の線量率は部屋中心の線量率よりも高い。もし、この順番が逆転している場合は床あるいは畳表面に放射性物質が付着している可能性が高いので、部屋の子あるいは床表面、置いてあるものを丁寧に計測し、線量率マップを作る。関西電子311βも使う。局所的か全面的に高いかを判断する。その後の処置は家屋内の計測が終わってから検討する。

関西電子311βでスリッパの裏の汚染をチェックして、汚染していたら履き替えてから次の部屋に移る。

- 窓際右端（サッシのレール部）。
- 窓際左端（サッシのレール部）。

- 廊下 1 端
- 廊下 中央
- 廊下 他の端

2階がある場合

- 2階の窓からプローブを出して屋根瓦の表面線量率を2, 3か所計測する。
- 部屋・廊下については1階と同じ

家屋外周り：

- 外壁に沿って家屋内の窓際の計測点に対応するように計測点を選ぶ。
- 雨樋の落ち口、
- 水桧
- 樋のない場合は雨水が落ちる地上の線上を計測する。

- 家屋外周りの見取り図を作る。
- 家屋外周の計測後、敷地境界に沿った線量率を、境界線の長さを適当に案分して計測する。
- 敷地に接する周辺道路の中心
- 敷地に接する周辺道路の両路肩
- 敷地につながる田・畑がある場合は、田畑内で境界寄りを計測する。
- 里山に面している場合は家屋から里山に向かって直線上に5m間隔程度で里山境界までを計測する。

計測終了後

班長は記録紙に目を通し

- 計測値、計測場所が判読可能であることを確認する。
- コメントが判読可能であることを確認する。
- 突出した計測値がないことを確認する。
- 班長は全員について汚染の有無を関西電子311βでチェックをする。
- 汚染している物（手袋など）はビニール袋に入れてごみ収集箱に捨てる。
- 靴底は水で洗う。
- 班長は依頼主に計測の結果の概要を伝える。
- 特に外回りでホットスポットが発見された場合は場所を知らせ、近寄らないようにするように伝える。

帰京後の作業 以下の作業を分担して行う。

- 手書きの計測値をExcelシートに転記する。
- 見取り図を適当なソフトを使って電子化する。
- 計測地点とその地点の線量率を見取り図に記入する。
- 計測結果について報告書を書く。
- 班長は計測値Excelシート、線量率記入済み見取り図、計測結果報告書を点検する。
- 班長は報告書を2部印刷して1部を依頼者に郵送し、1部はモニタリングチームで保管する。測定参加者には電子ファイルを送る。
- 班長はモニタリングデータ保管庫（長谷部氏担当）に収納するために電子ファイルを塩谷または伊藤（邦）に渡す。

